

I

解答

問1 1 ③ 問2～5 2 ③ 3 ⑤ 4 ①
5 ④ 問6 6 ① 問7 7 ④

スクリプト

Today, we are discussing customs involving candy, a sweet food made from sugar or chocolate. Do you know the saying "to have a sweet tooth"? If you love eating sweet food, then this expression applies to you. Many events celebrate having a sweet tooth and are often associated with historically established customs. Halloween is one such event. Here, people in costumes exchange candy when they go out trick-or-treating. Although this day was made popular in America, the tradition originally comes from Scotland and Ireland a long time ago. Other European countries also have customs involving candy. This may explain why these countries possibly eat more candy than anywhere else in the world.

Following an old December tradition, German children put an empty boot outside their door at night. They find the boot is mysteriously filled with candy the next morning by a Saint called Nicholas. People believe that this custom is important because it teaches children to appreciate the joy of gifts that are given freely.

Over in Sweden, every Saturday is a special day when children spend their weekly allowance to enjoy as much candy or sweets as they like. Swedish people believe that this custom helps kids plan their spending throughout the week. Instead of spending their money immediately, children learn to save up for their Saturday sweets. Sweden also has a custom of houses often having a bowl of candy on the table as an act of hospitality toward visitors.

Other candy-loving countries such

和訳

今日は、砂糖やチョコレートで作られた甘い食べ物である砂糖菓子に関する風習について話し合います。「甘党」という言葉をご存じですか？あなたが甘い物を食べるのが大好きなら、この表現はあなたに当てはまります。多くの行事では甘党を祝い、しばしば歴史的に確立された風習に関連しています。ハロウィンはそんな行事の一つです。ハロウィンでは、仮装をした人々がトリックオアトリートに出かけるときに砂糖菓子を交換します。この日はアメリカで広まりましたが、この伝統は元来、ずいぶん前のスコットランドとアイルランドから来たものです。他のヨーロッパ諸国にも砂糖菓子に関する風習があります。このことは、これらの国々がおそらく世界中のどこよりも多くの砂糖菓子を食べる理由の説明になるかもしれません。

12月の古い伝統に従って、ドイツの子供たちは夜になると空のブーツをドアの外に置きます。彼らは翌朝、ニコラスという聖人によって不思議なことにブーツが砂糖菓子でいっぱいになっているのを見つけるのです。無償で与えられる贈り物の喜びに感謝することを子供たちに教えるため、この風習は重要であると人々は信じているのです。

あちらスウェーデンでは、毎週土曜日は子供たちが1週間分の小遣いを使って好きなだけ砂糖菓子やお菓子を楽しむ特別な日です。スウェーデン人は、この風習は子供たちが1週間分の支出を計画するのに役立つと信じているのです。子供たちはお金をすぐに使うのではなく、土曜日のお菓子のために貯金することを学びます。スウェーデンには、訪問者へのもてなしとして、よくテーブルに砂糖菓子の入ったボウルを置く風習もあります。

デンマークなど他の砂糖菓子を受取る国々も、

as Denmark also eat similar amounts of sweets to Sweden. Unsurprisingly, these nations are often among the biggest candy consuming countries in the world.

スウェーデンと同じくらいの量のお菓子を食べています。当然のことながら、これらの国はしばしば世界で最も砂糖菓子を消費する国の一つとなるのです。

ワークシート

○ 砂糖菓子に関する風習

- ハロウィンなどのイベントには砂糖菓子が不可欠だ。
- 多くの砂糖菓子のイベントは 1 。

○ ヨーロッパにおける砂糖菓子に関する風習の特徴

	ドイツ	スウェーデン
開催する時期：	12月	毎週土曜日
子供たちが使用する物：	2	3
子供たちが学ぶこと：	4	5

問1

- ① 「冬に開催される」
- ② 「有名なことわざに見られる」
- ③ 「伝統的な習慣に関連している」
- ④ 「意味のない社会的通念がある」

砂糖菓子に関する風習について述べた文を完成する問題。第1段落第4文に「多くの行事では甘党を祝い、しばしば歴史的に確立された風習に関連しています。」とあるので、③が正解。第1段落第5～7文では砂糖菓子に関する行事の例としてハロウィンが挙げられているが、多くのイベントがどの季節に多いかについて言及はないので、①は不正解。②、④の内容は述べられていない。

問2～5

- ① 「感謝」
- ② 「ボウル」
- ③ 「空のブーツ」
- ④ 「お金の管理」
- ⑤ 「小遣い」
- ⑥ 「いたずら」

2 と 4 はドイツの砂糖菓子に関する風習の特徴に関わる部分で、第2段落で述べられている。「12月の夜に、子供たちが空のブーツをドアの外に置くと、翌朝、ブーツが砂糖菓子でいっぱいになっていく」という風習である。2 にはこの風習で子供たちが使用する物を入れればよいので、「空のブーツ」(③)が入る。また、人々はこの風習を「無償で与えられる贈り物の喜びに感謝することを子供たちに教える」と捉えていることがわかる。4 には子供たちがこの行事から学ぶことを入れればよいので、「感謝」(①)が入る。3 と 5 はスウェーデンの砂糖菓子に関する風習の特徴に関わる部分で、第3段落で述べられている。「毎週土曜日、子供たちが1週間分の小遣いを使って好きなだけ砂糖菓子やお菓子を楽しむ」という風習である。3 にはこの風習で子供たちが使用する物を入れればよいので、「小遣い」(⑤)が入る。また、人々はこの風習を「子供たちが1週間分の支出を計画するのに役立つ」と捉えていることがわかる。5 には子供たちがこの行事から学ぶことを入れればよいので、「お金の管理」(④)が入る。